躾（しつけ）　～モウと暮らした５０日～

作　岐阜農林高校演劇部

登場人物
山田
川島
桜本
馬淵
長野
生徒１
生徒２
生徒３
生徒４
父
母
妹
先生
家畜商の業者

動物たち
　※　この台本に登場する動物たちは舞台上では「０（ゼロ）」である。
　　従って役者の演技と効果音によってその「０（ゼロ）」は１つの個体として表現される。

はじめに

　それは平成１８年６月２２日のことだ。動物科学科のＫ先生から電話があった。その時、外は小雨がぱらつき夕闇が迫っていた。電話では「子牛が生まれる」ということだった。私達演劇部員はあわてて畜舎に出かけ、母牛の柵の前に集まった。今回の私たちの台本が牛をテーマとしているということで、出産の喜びに立ち会おうというわけである。私たちの学校は、全部で７つの学科があり、動物科学科の以外の生徒は牛の出産に立ち会ったことはない。同じ学校の生徒ながら今日はちょっとしたイベントの日となった。
　Ｋ先生曰く、破水がおこっているので、もうすぐですとのこと。私たちはしばらく待った。

「長い時間」待った。

　そのうち、牛の世話をしている先生や生徒達のうごきがあわただしくなっていった。
先生と生徒がロープを取り出して、真っ青な顔で母牛の体内にロープを縛りだした。
それがなんなのか、何を慌てているのか、みんなとても必死だったので、私たちは質問ができる状況ではなかった。後で聞いた話では、その時彼らは、体内の子牛の足にひもを引っかけて、強引に引っ張り出そうとしていたのだ。
　破水から出産までの間に、子牛の酸素供給は、母親の胎盤から子牛自身の肺呼吸に切り替わる。つまり子牛にとって破水後の「長い時間」は窒息という「死」を意味するのだ。
　かくして、子牛は母牛の腹から引きずり出された。水飴がゆっくりこぼれ落ちるように子牛は敷きわらの上に姿を現した。やはり息をしていない。担当の生徒は泣くのをこらえてい

る。子牛の体を暖めるために必死にさすっている。しかし子牛の体はどんどん冷たくなっていく。そのうち先生は子牛の口に自分の口をあてて息を吹き込む。どんどん冷たくなっていく子牛の体にみんなで息を吹き込む。誰もあきらめない。誰も何も言わない。長い時間が流れる。
　そして誰かが認めた。作業を終わるべきであることを誰かが認めた。初めて、担当の生徒が泣いた。私たちは、たったさっきまでそこに息づいていた子牛の命が、その時、なくなってしまったことを知った。

　がんばってもどうしようもないことがある。という台詞が今回ある。

　しかしいつも命は、なにもないところからやってくる。
　ついさっきまで君は確かにここにいた。
　　だから君はまだどこかにいる。
　　　　がんばればもう一度君にあえる。
　私たちはそう信じている。

Sceane―０

山田（声）　　これは、生まれたばかりの子牛です。（スライド①　子牛の写真）私たちの農業高校では、３年生になると牛一頭一頭に担当の生徒がつき、必ず子牛の誕生に立ち会います。（スライド②牛の出産の写真）私たち生徒は子牛の健全な誕生を願います。（スライド③　モウの写真）これは乳牛、オス、４８日の時の写真です。（スライド④　足が奇形の写真）このオスは誕生したとき、足が３本足でした。名前をモウいます。（スライド⑤　モウと山田の写真）私が担当したこのモウという子牛。このモウと暮らしたた５０日間について、ただいまより発表します。

Scence―１

　　放課後の畜舎の内における農場の風景。
　　牛の鳴き声が響く畜舎、発酵漕のファンが元気に回っている。
　　先生と当番の生徒達が並んでいる。

桜本　　きをつけー。礼。おねがいします。
全員　　おねがいします。
先生　　じゃあ、３年生の子たちはいつものようにはじめてください。
生徒１　はい。
先生　　さて、一年生のみなさん。今日ははじめての実習ですね。
桜本　　はい。
先生　　おっ、君は元気がいいなあ。

　　牛の鳴き声。みんな驚く。

生徒達　おわわわわわ。
先生　　花子も元気がいいなあ。
長野　　何あれ。

馬淵　やだあ、乗ってるよ乗ってるう。
先生　あぶない。近寄ってはいけない。
桜本　先生、これはなんなんですか。
先生　牛の発情だ。
みんな　発情！
先生　うしの排卵周期は２０日ってみんな知らないよね。牛は排卵の直前になると発情してなあ、興奮してなあ。メスどうしでもなあ。のっちゃってなあ。
生徒１　先生！
先生　ああ、えさやって。
生徒１　はい。

3年生、移動。

先生　はいメモしてください。私が言いたいのは、発情した牛に近寄るなということです。牛の体重は７００キロもあります。もし君たちが実習をしていて、突然発情した牛にぴょんって乗られたら、。骨折れるから。運が悪かったら、死ぬから。気をつけろよ。
全員　はい。
先生　さて、一年ははじめてだ。これから、動物たちの総合実習をとおして、びっくりしたり、つらいなあとおもったり、くさいって事もあると思うが、でも君たちが牛を信じていれば大丈夫だ。って、ことで除糞をする。
長野　除糞って何。
馬淵　あっ、えーーーーー。
長野　何。
山田　ふん。
先生　うん。
桜本　除く糞とかいて除糞。ですよね。先生。
川島　うんことることやて。

山田、うしろにさがる。半泣き。先生はまだ、そんな山田に気がついてない。
生徒４は第一ブリッジから飼料の固まりを落とす。音が畜舎に響く。ドン！

全員　！
生徒４　がんばれよー。
全員　はい～。
先生　よし、おれについてこい。

全員、移動する。

先生　これが、制御盤です。この制御盤で、ふんをきれいにする機械が動きます。
川島　先生、この学校、機械で除糞するんですか。
先生　バーンスクレイバーといいます。全国、この装備があるのは、この学校だけです。
桜本　バーンスクレイバー！
川島　すごいですね。うちにほしいです。
先生　酪農家かね君んちは。
川島　はい。川島といいます。

馬淵　じゃあ、この機械のおかげでうちらやらなくていいんだ。
長野　やった。
先生　川島、このちっこいボタンが４つある。これを押してくれ。
川島　はい。

スクレイパーが動き出す。生徒達はその様子を見る。
そして、終着点に移動する。
全員、糞だまりにおどろく。

長野　ハク～
馬淵　ハケ～
長野　うえ～
馬淵　うお～
先生　（奥に）おい、スコップもってこい。
3 年生　はーい

一年生は、糞だまりの前でたじろぐ、山田はくさくてこれない。3 年生、スコップ持ってくる。

先生　名前は。
山田　山田です。
先生　山田こっちこい～
山田　はい。
川島　あっ、スコップでやるんですか。
長野　スコップってあれー。
馬淵　スコップ短すぎやし。
先生　よし、じゃあやるぞ。

先生、うんこふんづけて、はいっていく。

馬淵　えーうそうそうそ。

全員パニック！

先生　さっきからなにごちゃごちゃいっとるだ！

間

先生　これが、今日の授業だ。・・・・・・はいれ。
全員　はい。

全員、泣きそうな顔でやりだす。本当に臭い。

先生　ところで、おまえらは、何を信じて、この学校に入ったんだ。
長野　？
先生　志望の動機だよ。君は、どうして、このうちの学校に来たんだ。

長野　うんこかたづけながら語るですか。
先生　語れ。
長野　動物好きだから。うち犬かってんです。そんで、ペットショップになりたいから。
馬淵　ペットショップになるの。ペットショップの定員になりんたいんでしょ。
長野　そうともいう。
先生　ペットショップになるのは、実は大変なんだ。
長野　そうなんですか。
先生　でもがんばればできる。ああ、君うれしそうだね。
馬淵　うれしくないです。
先生　そう。
馬渕　正直、こういうことに興味があるわけじゃないです。けど、中学校の一日入学の時に、食べさせてもらったアイスがおいしくて、それ作ってはいったのに
先生　ああ加工部門ね。
馬渕　あるんですか。
先生　アイスもつくるし、ハムもつくるよ。
馬淵　ハム！
全員　！
先生　いいぞハム。町中の人買いに来るぞ。
馬淵　それやりたいし。
長野　あれ、まだすすんどらん。
桜本　すいません。

長野と馬淵、桜本を手伝い奥へ移動。

先生　川島は、何で入った。
川島　私は、家が酪農だから、つぎたいし
先生　そうか。えらいなあ。
川島　牛好きだし。
先生　うーん、えらい。
山田　・・・・・・
先生　そうだな。おーい、山田。元気がないなあ。
山田　・・・・・・

ファン徐々に力を失って、停止する。

先生　山田は何で入った？
山田　入りたくて入ったんじゃない。
全員　・・・・・・
先生　・・・・・・あんなあ、そんなんいっていたら、
桜本　あっ、ついた。
馬淵　ごめん。
先生　耐えられんぞ。

生徒１ブリッジから来る。

生徒１　先生、発酵漕がとまっちゃったんですけど。

桜本　発行槽！
先生　あの、ぽんこつ。

二人去る。

桜本　発酵漕。発酵漕。バークスクレイバー、この学校は、僕の知らないものばかりだ。
馬淵　何本だったっけ。
桜本　桜本です。
馬淵　どうして、この学校はいったのさ。
桜本　実はですね。

馬淵と川島は、桜本の話を聞く。山田はちんたらやっている。

長野　いつまでやってんの。
山田　きれいにならんもん。
長野　きれいやん。
山田　きたないし。
馬淵　・・・・・・どうした。
長野　まじめにやらへんのやて。
馬淵　・・・・・・
川島　山田・・・・・・こっちやろ。
山田　・・・・・・

山田と川島は別の場所をやる。先生、いそいそとやって来る。

先生　スクレイバーうごかすからはよやれ。
全員　はい。

山田、まっさきにどく。皆もつづいて、出る。

先生　山田！
山田　はい。
先生　おめえ。何、まっさきにおわっとんじゃ！
山田　うごかすから、どいたんじゃないですか。
先生　他の人がまだやっとるだろ。
山田　はい。
先生　山田、こっちこい。

山田、先生のところへ。

山田　・・・・・・
先生　・・・・・・これうごかしてみ。

山田、制御盤にさわる。動き出す機械。そして柵が動き場面転換。

桜本　こうして、総合実習一日目が終わりました。あっ、僕、桜本コージといいます。北

海道からきました。どうして、北海道からこの岐阜まできたかというと、全国で、ここまで、ハイテク技術を駆使した農業高校は、この学校しかないと聞いたからです。僕は、将来、獣医になりたいんです。だから、くさいけど、一生懸命、がんばろうと思います。しかし、ひとりいかがなものかという女子がいました。山田さんです。どうなんでしょう。みんながんばってんのに、あそこまで、ああいう態度というのは、ためなのではないでしょうか。僕的に、今日の彼女は０点です。僕は、６０点ぐらいかなと思いました。

Scence―２　　下校

校外である。学校のフェンス柵ごしに畜舎が見える。
桜本が歩いている。実習服のままである。川島と山田は鉢合わせる。

二人　・・・・・・
桜本　やあ。
川島　あのさあ。着替えは！。
桜本　明日、早朝当番なので、このままでいいかなと。
山田　ひくし、無理、ありえんし。
桜本　初実習記念です。
山田　親におこられるでしょ。
桜本　下宿だから１人ぐらしなので、誰も怒ってくれません。
山田　えっ。
桜本　僕んち、北海道ですから。
川島　北海道。
山田　ていうかくさいし。
桜本　くさいですか。
山田　ああ、あたしもくさいし。もうありえんし。

他校の生徒の声が近づいている。

山田　ちょっと離れよか。
川島　あっうん。
桜本　なんで。
川島　ごめんね。
山田　無理やて。
桜本　はあ。
四人　・・・・・・
桜本　やあ。

四人、離れていく。

生徒１　変な人いる・・・・・・
生徒２　農林やない。
生徒３　くさくない。
生徒４　きこえるよ。
生徒３　くさいです。

生徒１　うしとかぶたとかおるんやよね農林。
生徒４　やっぱほんとなんだ。だからこのにおい。
生徒１　うんこばっかかまっととるんやよ。
生徒３　うんこうんこ。
生徒２　いいやて、うんこ好きなんやて、やで農林なんやろ。
川島　　あのさあ。
山田　　川島！
川島　　誰がうんこ好きいった。
生徒２　何、あんたにいってないし。
川島　　はあ。
生徒２　もう、いいやん。
川島　　聞こえとるんやて。
生徒２　ていうか。においさあ、でんようにしてほしい、みんなおもっとるよ。

　　畜舎のサイレージからたしかに匂いは来る。生徒３４は柵ごしに畜舎を後ろ指している。

川島　　何。
生徒２　自分たちは好きでやっとるでいいかもしれけど。
川島　　好きでやってないわ。
生徒２　でも、くさいでみんなめいわくしとるからさあ、消臭スプレーとかちゃんとしたほうがいいと思うよ。
川島　　・・・・・・・
山田　　・・・・・・・
桜本　　この僕の袖の茶色いの何かわかりますか。
生徒２　！

　　生徒２あわてて逃げる。

桜本　　この僕の袖の茶色いの

　　山田、桜本殴る。

桜本　　山田さん、今日みんなで実習がんばったじゃないですか。その臭い。勲章です。
山田　　はあ。
桜本　　誇りです。
山田　　あのさあ。桜本。
桜本　　はい。
山田　　なんかだめだよ。
桜本　　はい。すいません。でもおみなさん。
全員　　はい。
桜本　　トンカツ食べるでしょ。
全員　　・・・・・・
桜本　　ステーキ好きでしょ。僕好きです。で、動物育ててます。僕たち。だめですか。僕たち、くさいのだめですか。
生徒４　あの。僕、肉きらいなんです。

桜本　　えっ。
生徒４　すいません。
桜本　　すいません。
生徒２　いこ。
桜本　　ちょっと待ってください。でも、牛乳は飲むでしょ。ねえ

桜本に追われて、みな去っていく。川島はなぜか先ほどから落ち込んでいる。

山田　　何、泣いてんの。
川島　　泣いてないよ。
山田　　そうか。
川島　　・・・・・・くさいんだよね。うしなんて。今時さあ、牛なんて、誰もやらないんだよね・・・・・・
山田　　・・・・・・元気出してよ。
川島　　あんたもね。
山田　　・・・・・・うん。
川島　　うん。

柵が動き場面転換

Scence―３　山田家

山田の家庭。母と妹が夕飯を食べている。

妹　　ねえ、お母さん。どうして、うちは野菜ばっかりなの。
母　　なにがいいたいの。
妹　　キャベツのみそ汁・・・・・・きャベツの炒め物。キャベツのおひたし。キャベツごはん。
母　　今日は奮発して、キャベツひと玉つかったのよ。
妹　　奮発してない。それなんにも奮発してない。
母　　しかも、さらに奮発して、きゃべつの煮物。
妹　　キャベツから離れてよ！。
母　　いやよ！
妹　　うわうわうわうわうわ。もううわー。
母　　何どうしたの。
妹　　肉たべたい。
母　　・・・・・・
妹　　肉。肉。肉！！！！！！！！。
母　　うちはね。貧乏なの。
妹　　なんで。
母　　このマンションのローン返さなきゃいけないでしょ。
妹　　でも肉～
母　　返さないとだめでしょ。
妹　　肉～

妹、肉肉肉肉とさわぐ。そこへ、山田が帰ってくる。

山田　・・・・・・
妹　肉！
母　おかえり。
山田　お母さん。
母　何。
山田　がっこうやめたい。
母　何よ。それ。
山田　だって、あたしさあ、がっこうで、うんこかたづけなきゃいけないの。
母　もう、食事中でしょ。
山田　もう、学校止めさせて。私立(しりつ)行くう。
母　そんなの今、あなたが、そんなこと、いったらうちのマンションのローンはどうなるの。
山田　もーーーーーやめたい。もー。
妹　もーもー。
山田　何。
妹　うしたべたい。
山田　やめたい。やめたい。やめたい。（繰り返し）
妹　肉食べたい肉食べたい肉食べたい肉食べたい肉食べたい

母困る。父帰ってくる。

父　只今。
母　おかえりなさい。
父　お父さん、会社止めようと思うんだ。
母　ええっ。
父　もう、限界なんだ。何が限界って、最近じゃあ、父さん会社怒られて、お得意に怒られて、ノルマこなせなくって、痛みも泣く髪の毛が抜けるんだ。お前たちは頭のてっぺんで雨を感じたことがあるか。未知の世界だ。その時ね、ああ、もうやめようっておもったんだ。
母　お父さん、そんなこといったら、いったい、いつ、マンションのローン払うんですか。
父　やめたい・・・・・・あっちょっとここ横になるね・・・・・・やめたいやめたいやめたいやめたい！

3 人、だだをこねる。母かまわず、ご飯を食べ出す。電話がかかってくる。

母　はい、山田です。
先生　（別空間に先生）ああ、どうも、山田さんのお宅ですか。
母　はい。山田です。どちらさまですか。いまとりこんでおりまして。
先生　やあ、山田さんの担任の勝手口です。えー、今日ですね。総合実習の授業なんですが、その山田さんの態度というかなんというか、ちょっと心配な面がありましてね。周囲の子達もとまどっておるというか、変な話、このままで大丈夫かなと思いまして、一度、お母さんとほたるさんと一緒に、学校でお話願いたいんです。
母　はあ。でも。
先生　どうでしょう。明日あたり、学校にきていただけないでしょうか。５時以降でしたら、いつでも、

母　　はあ、でも、その、私、パートが。
先生　こういうのも変な話なんですが、今が一番大事な時です。
母　　はあ。
先生　パートとほたるさんとどちらが大事なんですか。お母さん。
母　　でも。
先生　パートとほたるさん。
母　　マンションのローン。
先生　お母さん。
母　　（家族３人、ばたばたわめいているのを見て）わかりました。
先生　お母さん。
母　　あたし、パートのほうが大事です。
先生　えええええ。

家族、4 人だだをこねて、暗転。
スライド上映　（文字付き）
「実習をばくっれる山田」
「授業をバックれる山田」
「生徒指導をばっくれる山田」
「家庭訪問をバックれる山田」
「とにかくばっくれる山田」
「牛にかまれて逃げようとする山田」

Sceane―４　乳房炎

だだこねながら、家族は撤去される。照明は絞られ、そこは、先生と山田。
山田は、まだじたばたしている。

山田　いやだ。いやだ。いやだ。いやだ――――――――――――――――――――
先生　山田・・・・・・
山田　（じたばたしている）
先生　山田。
山田　（じたばたしている）
先生　いつまでも、じたばたしてんじゃねえよ！
山田　・・・・・・
先生　お前もう３年生だぞ。
山田　ふん
先生　入学してから、ばっくれてばっくれてばっくれて。
山田　へん
先生　おまえ何がやりたくて、この学校に来たんだよ。
山田　別に
先生　話聞け。
山田　ふ
先生　実は先生もそうだったんだよ、君みたいに、やりたいことが見つからず、じたばたじたばた。でもなあ、おれは、牛と出会って、変わったんだ。
山田　え。
先生　牛と出会ってな

山田　嘘やろ。つくっとるやろ。
先生　牛と出会うまでの俺は、オートバイに乗って、風の中で自分を探していたんだ。ぶおんぶおんぱぱらぱぱらぶおーん‥‥‥俺は空っぽだった。
山田　あきらか、作り話やろ。先生。
先生　やっと俺の話を聞いたな
山田　しまった。
先生　山田！。
山田　はい。
先生　世の中にはな、３つの「や」があるんだ。いいか、第一は、やらなきゃいけないこと。いいか。そして、第二にはやってはいけないこと。そして、最後に、やってもいいことなんだ。山田は、やらなきゃ行けないことを日頃やらない。
山田　めんどいもん。
先生　１年生の春休み、おぼえているか。
山田　何？
先生　やってはいけないことまでやってしまったんだ！

回想、畜舎内。牛の花子の周りに、生徒あつまっている。
生徒１、４、馬淵、長野。牛の顔とかをなでている。

先生　今日は搾乳をします。
全員　はい。
先生　おまえら、搾乳、いわゆる、乳搾りははじめてだな。
全員　はい。

先生、生徒の側に回り込む。

馬淵　先生、こっちきたし。
先生　はい、馬淵、この乳を見ろ。
馬淵　へ？
先生　ここだ。みんなも。

全員、注目。

馬淵　はれてる。真っ赤やん。
先生　ああ、真っ赤だ。
長野　病気？
先生　ああ、真っ赤だな。これが、乳房炎です。
生徒１　どうして？
先生　この牛の乳房がな、打撲を受けたりすると、はれるんだ、で、この乳房の中に細菌が増殖する。飲めない牛乳になる。
生徒１　じゃあ、花子、乳絞っちゃだめやん。
先生　そうだ。もし、これが、変な話、農家だったら、花子はそく、淘汰する。
長野　淘汰ってなに？
先生　乳房炎はほかの牛に感染するから。だから、殺す。
生徒１　花子が死ぬ‥‥‥

花子、暴れ出す。

全員　おおおおおおおおおお。

全員、花子の名前を出して、落ち着かせようとする。たまらず長野が叫ぶ。

長野　先生、おっぱいがないくらいで、女性として、失格なんですか。
先生　話聞けよー。

全員静まる。牛は暴れる。

先生　花子――――――。

先生の祈りがつうじて、花子静まる。

全員　おおおお。
先生　ここは学校です。うちは、牛一頭に、担当生徒がついています。だから、淘汰しない。淘汰しないで治療をする。この乳房に、抗生物質をうちこむ。そうすると、こんどは、この抗生物質が乳にまざる。
生徒１　それも飲めませんよね。
先生　そう、だから、いいか。絶対、今日、花子の乳は、ミルキングーパーラーで搾乳しない。もし、搾乳したら
馬淵　他のと混ざっちゃうよね。
先生　そして、学校以外のよその農家の牛乳とも混ざっちゃうよね。
馬淵　どうするの。
先生　捨てるしかないな。その日の牛乳全部。
全員　ええええええええ。
馬淵　もったいないやん。
長野　あっ、でものめんし。
先生　で、損害賠償だ。いくらだと思う。
生徒１　百万。
先生　やす。
馬淵　一千万。
先生　やす。
長野　何千万。
先生　やすい。
全員　・・・・・・
先生　あいちゃん。
生徒４　あいちゃんわかんない。
先生　数億円の損害を出すこともあります。もし（馬淵に）やらかしたら、払えよ。
馬淵　ええええ。そんなん学校止めるし。
先生　いいか、この花子から搾乳することは、やってはいけないことだ。わかったか。
全員　はい。

花子、うんこする。全員、うわっという顔をする。

長野　あっ片づけます。
先生　よし、じゃあ、他の牛ぼってくれ。
全員　はーい。

先生、生徒１３は去る。馬淵と長野は除糞をしている。

先生　山田がきたら、さっきのこと言っといてくれ。――――――おい、もっと要領よくやれー。こっちだー。

先生、消える。山田来る。３人視線が合う。

馬淵　また、遅刻やん。
山田　……
長野　もういこ……

馬淵と長野去る。山田１人。

先生　おーい、はやく、うしぼえー。
山田　花子……花子……はい！はい！……

山田、移動、ミルキーパーラーへ牛をつれてくる。搾乳開始。
桜本来る。桜本、花子に気づき、搾乳機が起動しているのを見て。

桜本　山田さん……、花子は乳房炎です。
山田　あっ、おはよう。
桜本　うっかりですよ。
山田　何？
桜本　なんで、乳房炎の牛の乳しぼってんですか。
山田　は？。
桜本　うっかりですむんでしょうか。
山田　なにがいかんの？
桜本　乳房炎の牛の乳は、細菌がはいっています。
山田　えっ。
桜本　うっかりですよ。細菌が、うっかりまざりますよ。先生――――――――――――――――。
山田　えええええええ。聞いてないし、

さっきのメンバー来る。

馬淵　あ――――――――――――――――――――。花子の乳、しぼっとるし。
長野　山田あ～。
山田　何、しらんし。
先生　どうし、ああああああああああああああ。
桜本　どうしましょう先生、あたふた、です。先生。
先生　バカヤロー、機械止めろ。
桜本　ああ、そうだ。

先生　気付け～馬鹿！。こら、山田かあ。
山田　そんなんしらんし。
先生　なんでおまえらおしえんかったんや。
馬淵　しらし。
長野　遅刻してくるほうが悪いし。
山田　おしえてくれていもいいやん。
馬淵　何いっとんの。
長野　いいかげんにしやあ。あんた遅刻するから／
馬淵　／そうやて／
先生　／うるせえ！

間

先生　この損害誰が払うんだ。

暗転クロス、父と母が浮かび上がる。

父　払えません！
母　私、パートいくつやればいいの。
父　抜けました。
母　どうしましょう。お父さん。
父　仕方がない。じいさんの思い出のじゃーじを売るしかない。
母　お父さん、それは！

父母、消える。また、もとの、先生と山田。山田じたばたしている。

Sceane―５　柵

山田　払えない。払えない。払えない。
先生　山田～。
山田　じたばたじたばた。
先生　山田～。まあ、あの時は、ほんとうにたいへんだったなあ。
山田　はい。
先生　でまあ、なんとかなったなあ。
山田　はい。
先生　でもなあ山田。あれは、やっちゃいけないことだぞ。
山田　こんどは何。
先生　君が、２年生の時だ。
山田　あああああ

全体照明。上袖から、紐を引っ張っている。業者がドナドナを鼻歌を歌いながら、現れる。

先生　ああ、すいません、斉藤さん。
業者　こいつ力強そうですね。
先生　すいません、家畜商さんには、いつもめいわくかけっぱなしで、

業者　これも仕事です。

業者は鼻歌を歌いながら、ひっぱる。鼻歌を歌いながら、きびきびとうごく。
しかし、なかなかうごかない。

先生　おーい。蹴ればいいんやて。ければ。長野、長野！

業者、鼻歌を歌いながら、ごく普通に花子を蹴る。蹴り音がにぶく響く。
業者、鼻歌を歌いながら、出て来る。
長野もいっしょに出て来る。

長野　先生、殺さないって、いったじゃん。
先生　さっき話したろお。
長野　殺さないっていったじゃん。
先生　仕方がないじゃないか。乳房炎が感染したらどうするんだ。
長野　そんなん、花子がかわいそうじゃん。
先生　花子は家畜なんだ。･･･お前らそんなんで３年生にもなれるのか。
長野　･････はい。
先生　感染したら、他の牛はどうなんるんだ。
長野　はい。

長野、袖に戻る。牛をぼう、長野と馬淵の声が聞こえる。

先生　ああ、だめだなあ。
馬淵　（出てくる）先生、無理ですよ。
長野　（出てくる）うん。
業者　ウインチもってきます。（業者走る去る）
馬淵　ウィンチってなんですか。
先生　ほれ、あの、車の後ろについてる、クレーンみたいなやつだ。
二人　･････
先生　あっ、お手伝いします。おい長野、花子たのむぞ。
長野　ひどいて

二人、去る。先生どぶつきながら業者のほうへ。ロープが、ゆっくり上袖に消える。
山田、上袖に行く。

山田　ごめんね。うちが、うっかり、搾乳機にかけてまったもんで、乳房炎がひどくなっちゃったんだよね。ごめんね。ごめんね。

長野達来る。
山田、上袖に手を伸ばし、花子のロープをほどく。ロープが落ちる。

山田　はい！はい！花子、はい！
長野　山田。ちょっとお。
山田　･････

山田、花子をぼう。そして、客席に花子をはなす。先生戻ってくる。
桜本も来る。

先生　なにやってんだあああああ。山田！
山田　野良牛。
先生　何。
山田　今日から、花子は野良牛。

先生、山田をなぐる。

山田　だってさあ、花子はさあ、うちのせいで死ぬんやん。うちのせいやんねえ、そんなんさあ、だまって、みてられなくてさあ。
先生　花子はこのあと何を食べるだ。一日の何１０キロの草を食べなきゃ生きていけない花子は、今から、なにをたべるんだ。あの大きな体で、おなかをすかせて、どうやっていきていくんだ。山田は、なにも考えてない。
山田　考えられるわけないやん。かわいそ／
先生　考えろお！‥‥‥牛は‥‥‥柵の中で、生きる生き物なんだ。
山田　‥‥‥
先生　責任もって、探してこおい！

山田、走っていく。

先生　みんなをあつめろ。
桜本　はい。
川島　はい。

桜本と川島は全員あつめる。生徒は、全員集まってくる。馬淵と長野は、客席を歩いている、花子に気づく。

先生　うしを柵にもどします。今は、興奮していますが、うしは、本来、自分が安心して暮らせる場所、この柵に戻ろうとします。だから、うしがこの柵に戻ってくるように、要所要所でたってください。いいですか。

全員、散会。長野と馬淵も客席へ。全員、場転。
換気扇から光がこぼれる中。
畜舎の内で山田はしょんぼりしている。
馬淵と長野畜舎第１ブリッジに現れる。

馬淵　ちょっとそこでなにやっとんの～
山田　‥‥‥ろーぷとかいるかなって
長野　ここにあるよ。
山田　あっうん。・・・・・・ごめん。
長野　泣くのやめよ。
馬淵　いっしょにさあ、外さがそ～
山田　うん。ごめん。

桜本第２ブリッジ空間。

桜本　山田さんが逃がした牛は、結局、山田さん自身がみつけました。山田さんぐずぐすしていましたが、長野さんと馬淵さんが手伝ってくれて、3人で、もとの柵の中に連れ込んできました。みんな大騒ぎでした。でも、家畜商の人が、花子を連れて行ってしまうと、みんな、また、普通に実習をはじめました。僕は、なんか、山田さんの自分勝手さに、あきれてしまって、みんなが探している時、ひとりで、除糞していました。今日の僕は、５０点です。でも、山田さんのスーパー０点よりはましです。

黄昏の中、畜舎外。馬淵と長野が来て、３人で牛をぼう。
柵の中にもどる花子
花子は安心して一声なく。
業者が現れる。

先生　よろしくお願いします。
業者　はい。

業者。ドナドナの鼻歌を歌いながら、花子を連れて行く。全員言葉がない。先生と山田。

山田　・・・・・・すいませんでした。
先生　ん
山田　・・・・・・

全員散会。そして、椅子を持ってくる。そこは、帰りのＳＨＲ。柵は教室。

Sceane―６　漢字テストのあと

川島　起立、礼。
全員　おねがいします。
先生　もう３年生の５月です。３年生というのは、進路にむかって、ひたすら走っています。そのはずです。なあ～。

みんながやがや

先生　でもなあ。あの漢字テストの結果はなんだあ！

みんなシーン

先生　長野、おまえ、母乳の字もかけんのか。
長野　やめてよ。はずかしいやん。
馬淵　ばかやし。
先生　馬淵も、いくら画数多いからって、自分の名前間違ってたぞー。
長野　ばかやし。

みんながやがや。

先生　その点、田口は完璧だったなあ。
田口　あたりまえです。
馬淵　漢字テストなんか、成績関係ないし。
先生　漢字テストもしかり、進路に重要なことだ。来年の今頃は、どうしてる。鈴木！
生徒４　来年も、この教室にいるかな。
馬淵　絶対おるし。
長野　留年。ばかやし。
生徒４　うるさーい。
先生　中島はどうしている。
生徒１　私は、専門学校でトリマーの勉強とかしています。
先生　えらいなあ。漢字もよかったぞ。

みんながやがや。

先生　ああ、そういえば、まだ、２者墾おわってないやつ。誰だ。進路懇談

川島、桜本、山田、手を挙げる。

先生　じゃあ、おまえら、放課後の実習の時、俺のところ来いなあ。
桜本　はい。
川島　はい。
山田　・・・・・・
先生　山田いいか。おまえ、漢字テストもできてないぞ。
山田　はい。
川島　先生。あの、体育祭の応援団きめたいんですけど。
先生　あっそうか。

川島、前にでる。

川島　あのお。体育祭の応援団役員をきめないと、だめなんですけど、やりたいって人いますか。最低二人なんですけど。

間。

川島　いませんね。どうしましょう。
先生　もう、めんどうだから、川島やれ。
川島　えっ、あたしですか。あたしは、ちょっと。
先生　じゃあ、山田。
山田　じゃあって、何よ。
先生　嫌いじゃないだろ、先生知ってるぞ。山田。中学の時、応援団やっとたやろ。
山田　あれいやいややてしかも全員やし
先生　まあ山田。やっとけ。
山田　はあ。
先生　よし、こないだ花子のこと帳消しにしたる。
山田　はあ関係ないし。

先生　みんなに迷惑かけたじゃないか。
山田　・・・・・
馬淵　はーい。
川島　あっ、やってくれる。
長野　はーい。
川島　あっ、きまりました。先生。
先生　山田は。
長野　やろっ、いっしょに。
馬淵　やろ。
山田　・・・・・・
先生　よし、じゃあ、この馬淵と長野に、体育祭の応援団役員、やってもらおう。あと山田は保留～
川島　いい人は、拍手してください。

Sceane―７　懇談

全員、拍手。場転。牛舎外、後ろでは、生徒達が除糞や、給餌をしている。
先生が来る。川島が来る。雨が近づいている。

先生　川島、桜本しらない。
川島　除糞していましたよ。呼んできましょうか。
先生　たのむ。
川島　はい。

桜本来る。

先生　すわれ。
桜本　はい。
先生　どうした。
桜本　先生、雨降りますよ。
先生　何、ぱっぱっと終わるから。
桜本　はあ。
先生　おまえ、獣医になりたいんだってなあ。
桜本　はい、絶対獣医になります。
先生　・・・・・・無理だ。
桜本　えっ。
先生　無理なんだ。
桜本　まだ勉強が足りないでしょうか。
先生　うちの学校で、獣医になるのは、不可能なんだ。
桜本　えっ。
先生　獣医で推薦枠の国公立大学がない。
桜本　えっ、でも、じゃあ、・・・・・・一般は。
先生　学力が違いすぎる。勉強するにしても、俺たちには、総合実習をやらなきゃいけない。授業で牛の世話をしなきゃいけない。
桜木　はい。
先生　普通高校の子みたいに、勉強する体勢はない。

桜本　はあ。
先生　うちの学校で、センターうけることは想定に入っていない。
桜本　じゃあ、無理なんですか。
先生　お前、頑張ってるから、私立の大学とからならいける。理系の。
桜本　獣医も。
先生　無理だ。
桜本　・・・・・・あー、はい。はい。あーわかりました。がんばります。
先生　桜本
桜本　がんばります。これからも。
先生　私立なら大学に行くことはできる。だから、がんばるんだぞ。
桜本　はい、次誰ですか。
先生　山田。だ。
桜本　じゃあ、よんできます。

先生のすわっている。背景を、一輪車やえさを運ぶ生徒達が一生懸命実習をやっている。

桜本　一生懸命やッてんだけどなあ。

山田来る。

山田　何？
桜本　関係ないよ。

桜本走って去る。

山田　なにあいつ
先生　まあ、すわれよ。お前進路決まってるか。
山田　決まってない。
先生　悩みとかあんのか。
山田　ない。
先生　部活、やってんのか。
山田　やってない。
先生　学校楽しいか。
山田　楽しくない。
先生　・・・・・・でも、おまえなんだかんだいいながら、ここまで、よく来たな。
山田　・・・・・・
先生　長野たちと応援団やんのか。
山田　たぶん。
先生　がんばってるじゃん。
山田　このままだとさ、あたし学校やめそうやん。卒業しないと就職できんやん。
先生　おー、お前、卒業する気あんのか？。
山田　・・・・・・一応
先生　じゃあ、卒業するには、牛を一頭世話しないとな。
山田　牛。
先生　３年になったから牛一頭世話して、それで卒業だ。

山田　ああああ。
先生　ちょっとこい、その牛を説明してやろう。
山田　はあい。
先生　これがお前の牛になる予定だ。
山田　名前は。
先生　サントス。
山田　微妙。
先生　こいつはもうすぐ子牛を出産する。
山田　えっ。
先生　おまえの責任で出産する、子牛の面倒もお前が見る。
山田　ええええええ。
先生　うれしそうだなあ。
山田　めんどくせえええええ。
先生　おおお川島あ。

川島、はすでにそこにいる。

川島　はい。
先生　お前、もう、プロジェクト決まってるんだって。
川島　はい、山田と考えたんですけど。
先生　おー、山田とか。山田―！、お前、プロジェクトやるのか！
山田　うん。
先生　そっかー、がんばれよ。川島、で、どんなテーマだ。
川島　牛乳嫌いの子が多いから、さっぱりした牛乳をつくるために、ハーブ食べさせたいんです。で、いろんな人にのんでもらって、データ集めて‥‥‥
先生　いいなあ。それ。じゃああれか、進路も酪農関係の進学というわけか。
川島　あ、あ、うち、進学は無理で。
先生　成績がいいからできるぞ。
川島　いえ、その、うち、すぐ、自営みたいな。
先生　おおお、自営か、ここにも書いてあるもんなあ。継ぐのか。
川島　まあ。
先生　うし、何頭いるんだ。
川島　１００頭ぐらい。
先生　１００頭いいなあ。今、誰が。
川島　お母さんが。
先生　お父さんは。
川島　今、‥‥‥腰が悪いんで。
先生　腰か‥‥‥でも、お母さん１人で大変だろ。
川島　バイトとか、やとって‥‥‥でも、いつもってわけにいかなくて、
先生　そーか、いろいろあるんだな、でも、お前ががんばればいいじゃないか！
川島　先生。
先生　君こそ、動物科の期待の星なんだ。今どき、若い子で、牛の世話やろうって子なんていないからな。
川島　今どき、やりませんよね。

雨

先生　期待しているよ。ああ、雨だ。中にはいろう。おーい。雨がふきこまんようにしろよ～

雨がふっている。雨にうたれている川島。山田、傘を持ってくる。

山田　はい。
川島　うん。
山田　元気ないね。
川島　あんたもね。
山田　どうしたの。
川島　・・・・・・期待してるって初めて言ってくれたのは、お父さんなんだけどね、今、いないんだ。本当は。
山田　うん。
川島　最初５０頭だった、牛の数を倍に増やして、ストール型の牛舎に改築して、経営が始まったのが、今から１０年前で、まだ、こんな景気がわるくなくて、お父さんも、お母さんも、まだあのとき生きていたおじいちゃんも、まさか、今みたいになるなんておもってなくてさ、期待しようとか、がんばろうねとか、そのうちなんとかなるとか、家族で頑張っていたのが、だんだん、みんな、しかたがないとか、しょうがないとか、いうようになった。・・・・・・むずかしいんだよね。期待してるっていわれてもさ。どう思う。
山田　・・・・・・

二人の間に雨、それは、鼓動の音に変わっていく。

Scence―８　誕生

牛の鼓動にかわっていく。
生徒２が掃除をしている。先生が来る。

先生　わるいなあ、担当の山田がまだこんからなあ。
生徒２　まだです。あれから、ずっとねころんでいるんですけど。
先生　ああ、きたきた。

山田くる。

山田　ごめん、ごめんおそくなっちゃってごめんねえ岩井、あっ、生まれた生まれた？
先生　まだだー。
山田　あっ、エサやっていい。
先生　いらないよ。
生徒２　先生、牛乳もってきます。
先生　ああ。

生徒２去る。入れ違いに、川島来る。

川島　先生、まだですか。

先生　まだだな、たぶん、もうすぐ、破水があるから、よくみとけよ。先生、一応、ロープ準備してくるから。
山田　ロープ。
先生　難産なら、ひっぱるしかない。
山田　え――

先生去る。

川島　メスだといいね。
山田　オスだとあかんの。
川島　オスって、乳でんやん。
山田　乳でんと、なんかあるっけ？
川島　この子達、乳牛やでさあ。乳でんかったら、淘汰やん。

生徒２、牛乳を持って戻ってくる。

山田　殺しちゃうの。
川島　肉にするの。
山田　川島は、うちで、牛やっとるで。平気やね。
川島　平気やよ。
生徒２　大丈夫やて。
山田　うん。
川島　そう大丈夫。でもわからんよ。
山田　何それ。
川島　オスやったもんね。
生徒２　うちのもオスだった。

牛が鳴く、生徒達、牛に近づく。

生徒２　私さあ、２年から担当した牛が出産して。オスだったの。出産ってやっぱりすごくうれしいんだけど、でも、オスだと、どんなにがんばっても、５０日なの
山田　５０日。
生徒２　５０日で、オスは淘汰なの。
山田　・・・・・・
生徒２　大丈夫やて、きっと雌だから。
川島　そうそう。わからんけど。
山田　何それ。
生徒２　生まれたらさあ、牛乳を飲ませてね。子牛は、初乳をのんで免疫力をつけるから。
山田　はい。
川島　あっ、破水しとるよ。
山田　えっ。
生徒２　先生呼んでくる。先生～

生徒２去る。入れ違いに先生来る。

先生　おっ。どうした。

川島　先生、破水してます。
山田　これ破水。・・・・・・先生、足ですか。これ。
先生　おっ。順調やんか。いいぞ。

先生、あしをひっぱる。

先生　山田、手伝え。
山田　どうすればいいの。
先生　戻らないように、いっきにひくんだ。破水してから、長い時間がたつと、肺呼吸にかわってる子牛は窒息する。いいか。
山田　はい。
先生　よし。よし！そうそうそう。よし。よし。そうそうそう。

牛の鳴き声。そして、出産。

先生　ミルク。
川島　はい。
山田　私も、もってきます。
川島　何回見てもいいもんですよね。
先生　そうだな。

先生、牛の足を開く、

先生　・・・・・・
川島　・・・・・・先生。
先生　うん。
川島　この牛、足、変じゃないですか？
先生　ん、あー。

山田、生徒２のおいたミルクに気づく。そして、ミルク持ってきて、のます。

山田　のんどるー。みてー。のんどるー。
先生　山田。
山田　先生、これメスですか。メスだよね。
先生　（足を開いてみせる）オスだ。
山田　・・・・・・
先生　それから、この子の前足は一本な・・・・
川島　あの、母牛用の栄養剤持ってきます。
先生　あっ川島、栄養剤の場所わかるかい。

川島と先生去る。山田ひとり。

山田　たって・・・・・

モウは座り込む。山田、呆然とする。溶暗。
太鼓の音が聞こえてくる。

Scean―９　応援団

長野と馬淵が、応援団の練習をしている。

馬淵　金華の山を駆け上る、黄金龍の黄団供養！
長野　赤団必勝の風！
馬淵　長良の川を飲み干す路山の鬼、青団供養！そして、
二人　赤団必勝――――――――――――――――――――――。
長野　いい感じやね。
馬淵　いいね、あっ、みんなきたよ。

みんなぞろぞろ。長野と馬淵はみんなを並べようとする。

馬淵　山田、こっちならんで。
山田　あい。
長野　川島、議員なんやで、並ぶの手伝ってよ。
川島　はいはい。

みんななならぶ。

馬淵　初めてやで、今日は、声だしするよ。
長野　じゃあ、うちにつづいて、押す三唱。やるよ。
馬淵　やるよ。、

がやがや。男子やる気なし

長野　押す三唱。押す！

押す三唱。しーん。

馬淵　ちょっとなにすわっとんの。
長野　たってよ。
生徒６　さわんなて、めんどいんやて。
生徒５　応援団、だけでやってよ。
生徒７　あっつい、めんどくない。
馬淵　うちらも、あついです。でも、がんばりましょう。
長野　じゃないと、優勝できんやん。
生徒８　優勝しんでいい。
馬淵　なんやとおおおお。

先生きます。

先生　おい、練習中わるいが、山田、おるかー。
生徒６　勝手口来た。
山田　はい。
先生　山田、お前、担当、子牛の世ろ話、なにやっとんや。早く来い。

山田　はい。
先生　お前の責任でやれといっただろお。名前つけたんかあの子牛に
山田　まだです。
先生　なにやっとんや。
長野　先生、ちょっとまってて、今、練習中やで、後にしようよ。
先生　そんなこと言ってもぜったい、さぼるやろ。
長野　さぼらへんて、ねえ、山田。
山田　・・・・・・
先生　ほら、こーへんやろ。
長野　行くて、ねえ、馬淵。
馬淵　そーやて、いくよね、
山田　・・・・・・うん、絶対に行く。
先生　じゃあ、お前ら、責任、とれるんか。
馬淵　・・・・・・うーん。じゃあ、うちら、二人が絶対に山田連れて行く。
先生　待ってるでな。
山田　・・・・・・はい。

先生、去る。

山田　ごめん。
長野　がんばろう。
山田　うん。

並ぶ。山田、意欲的にやる。喜ぶ二人。
そして、それは、川島、そして、クラス全体に広がっていく。そして、そのまま、応援団の演舞のシーンにつながっていく。
桜本、「牛団団旗」をもって、旗を振っている。
太鼓、３・３・７拍子。全体乱舞。乱舞の中・・・・・・

桜本　がんばれば、できる。がんばれば、なんでもできる。そんな気持ちになれる。体育祭でした。最初は、みんな、めんどくさがっていたけど、本番当日、がんばれば、なんでもできる。そんな気持ちが１つになりました。みんな百点！

長野　そこにまします。赤団諸君にものもーす。
馬渕　ものもーす。
長野　伊吹の山際より、かけおりたる。伊吹のおろし、鋼の風をうけて、君は育ち。
馬渕　金華の山を抱き、黄金の野の中に降り立ちたる、赤き闘神の化身として、君は育ち。
長野　ろうろう。
馬渕　けんらん。
二人　たる。
長野　命の泉、今も絶えず、流れ。
全員　この長良の川に磨かれた君。
長野　金華の風、赤団の上に吹きすさぶ。
馬渕　負けるな負けるなと吹きすさぶ。
全員　負けるな負けるなと吹きすさぶ。
二人　百花繚乱！猛牛乱舞！赤団戦士に応援歌。

全員　我ら牛団。
二人　金華黄金、路山青鬼、伊吹白虎を供養する！
全員　我ら牛団。
二人　赤き牛の唄！
全員　も――――――――――――――――

山田、太鼓乱打。

二人　赤き牛の唄！
全員　も――――――――――――――――――――――――――――
二人　赤き牛の唄！
全員　も――――――――――――――――――――――――――――――――――

山田、ばちを落とす。全員瞬間驚く。刹那の間。馬渕すかさずに拾って、山田になげる。長野、すかさず手を挙げ決める。全員続く。山田、みんなにあわせて続けて、乱打する。

長野　もー
全員　猛牛突進。

場面転換。太鼓の音は、まだ遠くに響くなか。桜本と先生が現れる。

Scence―１０

桜本　先生、あの牛、山田さん、モウって名付けましたけど。どうなんるんですか。
先生　足も曲がってるし、オスだし、本当はさあ、淘汰しよっかなあと思っているんだ。
桜本　山田さん。そんなんじゃあ、ますますまじめに、モウの面倒見ないんじゃないですか。何なら僕面倒みましょうか。将来の獣医として、興味があります。

先生　それがなー。俺は、あんな、山田、初めて見たよ。
桜本　えっ。
先生　モウを見事にしつけている。

二人去る。山田、モウを連れてくる。

山田　じゃあ、散歩いこっか。・・・・・・（モウはケージを出てそこから動かない）・・・・・・もう、おいで。もう！・・・・・・じゃあ、足持っていてあげるから、一緒に行くよ～。そうそうそう。いいよ。じゃあ、手を離すから、１人でがんばってね。いいいよ。いいよ。あともう少しだからね。・・・・・・（モウまた止まる）・・・・・・もうおいで、歩かないと淘汰されちゃうよ。・・・・・・（山田、バケツにミルクを入れる）モウ、おいで、おいで、モウの好きなミルクだよ。・・・・・・（モウ歩き出す。そしてケージに戻る）できるじゃん。じゃあ、ご褒美のミルクね。頑張った後はおいしいでしょ。・・・・・・（バケツを吹き飛ばす。そして脱糞。山田、片づけようとする。しかし、モウがじゃれてくる）モウ！ちょっとじゃま、どいて、どいて、じゃまだってばあ。・・・・・・（やむえず、山田は素手で、モウの糞を取り除く。そして、モウに近づく）もう、おいで、（モウ甘えるために近づく）しかえし～。

（モウのうれしそうな声）３本足でもがんばったもんね～

モウと山田はじゃれあっている。そして、奥へ。

桜本　こまったことに最近の山田さん。かなり一生懸命、モウの面倒を見ていて、点数を付けるなら、８０点くらいではないでしょうか。あの体育祭あたりから、仲間ともうち解けて、なんだかすこしかわりました。僕はというと、とにかく普通高校に負けない勉強しなきゃって、実習とかさぼって単語帳やってます。だめですね。２０点です。

Scence―１１　モウ

牛の鳴き声。桜本、馬渕、長野、川島来る。桜本は遅れて、しかも単語帳。

川島　スクレイパー動かすよ。
全員　あーい。
馬渕　じゃあ、スコップ。

全員、３年生の動き、スクレイパーの動く音。
馬渕、スコップを持ってくる。山田と鉢合わせ。

山田　あ、モウの散歩いったら、手伝うで。
馬渕　わかった。

桜本、どっかに行く。除糞開始。先生来る。

先生　おー、やってるな。
全員　こんにちは。
先生　がんばってるなあ。おい、(後ろの下級生へ)お前ら何やってんだ！

うしろの下級生達、にゃーといいながら、去る。

先生　おまえらも、ああいう時代があったなあ。
馬渕　なにー、にゃ～なんて言ってないし。
長野　いってない。いってない。
先生　１年の頃は、うんこ見て、にゃー、にゃーいっとったやないか。
馬渕　まあ、１年の頃は、そうやったかもしれんけど。
先生　馬渕なんか、特に嫌がってただろ。それが今ではなー。
馬渕　ちょっと待ってよ。長野よりはいいて。
長野　はぁ、ありえんやろぉ。
先生　まぁ、どっちも一緒や。でも、よくぞ、ここまで、成長してくれたなあ。担任の先生にもいっとくよ。こっそりなあ。
三人　ありがとうございます。
先生　あれ、桜本は？
馬渕　あれ、さっきおったよね。一緒に来たし。
長野　あいつ、存在うすいし。

桜本くる。

先生　おい、桜本〜。
桜本　あーすいません。今やります。
先生　よし。じゃあ、みんながんばれよ。
全員　はーい。
川島　じゃあ、スクレイパー動かすね。

全員どく。スクレイパー起動音。

馬渕　明日、進路説明会さあ、何にした。
長野　やっぱ、ペットショップ店員になりたいで、専門学校かな。馬渕は。
馬渕　まあ、食品加工の方いきたいで、就職のほういくけど。
長野　そっかー。
馬渕　何本だったっけ。・・・・・・うそやて。桜本は？
桜本　僕は、国立の獣医に行きたいなと思っています。
二人　はー国立。
長野　でも、桜本、頭いいもんね。
馬渕　まー推薦か。
桜本　推薦枠なんいんで、一般で、行きたいなと思っています。
二人　まじでー。
馬渕　めっちゃたいへんやん。
桜本　だから、勉強で、寝不足で、ボーでして。こうやって歩いてると。

桜本寝る。

馬渕　桜本〜。
桜本　いかんいかん。
長野　がんばってね。川島は。
川島　うん。
長野　自営やったよね。たしか。
馬渕　牛やっとるもんね。うちで。
川島　・・・・・・
馬渕　自営なら、いいなあ。楽で。
長野　そうやね。
川島　明日、あたしも、就職行くかも。
馬渕　えー、なんで。
川島　・・・・・・

川島、離れる。

馬渕　どうした。
長野　なんかあった。
川島　うち、牛続けられないかもしれんで。
馬渕　なんで、

川島　うちの牛の能力が低いのもあるんだけど、牛乳、今安いんやて、借金もあってさあ、お父さんどっかいってまうしさあ。つぎたいんだけど、うち、はたらかなあかんかもしれんなあ、みたいな。・・・・・・あっ、たぶん、大丈夫だけど。あ、やろか。

まあぼちぼち終わってしまったので、桜本、また単語帳をやっている。
山田、モウと一緒に戻ってくる。

山田　桜本。
桜本　はい。
山田　まだ、ここ。
桜本　あっ、そうか。
山田　手伝うね。
桜本　いいです。
山田　えっ。
桜本　自分のことですから。いいです。ブラシとってきます。

実習を始めようとする。
そこへ、山田、散歩から帰ってくる。
生徒達、「かわいいい」とよってくる。
そこへ先生と業者がくる。業者は鼻歌。

先生　どうにかおねがいしますよ。
業者　まあ、いちおうがんばってみますげと、実物見ないとなあ。

二人の会話に、生徒たちは気がつくが、後ろを振り向けない。

先生　あれです。どうでしょう。
業者　あれですか〜、あの足は。
先生　生まれたときからです。
業者　ちよっとむずかしいですね。
先生　そこをなんとかお願いしますよ。
業者　まあ、学校さんとは、親父の代からお世話になってますから、まあ、がんばってみますわ。
先生　はい、おねがいします。
業者　明日ぐらいに、じゃあきますので。
先生　はい。

山田、振り向く。先生、山田に気づく。

先生　あの、あっちのぶたなんですけど。
業者　はい。

二人去る。山田泣いている。

川島　もう、５０日たつんだね。
馬淵　うん。

川島　すごくない、ふつうさあ、足曲がってたら、自分でたてずに、そのままの子もおるのにさあ、こんなに元気になってさあ。
長野　そうや。すごいいい子やんねえ。
川島　すごいいい子に育ったよね。
馬淵　山田がんばったもん。

山田、牛を連れて行く。

川島　ねえ、どうした。山田〜

舞台転換

Scence―１２　牛と家族

山田の家庭。
場転換終了
ちゃぶ台の上に焼き肉プレート。家族、父、母、妹が手を合わせている。

家族　いっただきまーす。
妹　焼き肉ですね。お母さん。
母　そうよお。
妹　あっ、鶏肉だ。
母　そうよ。
妹　鶏肉なんて、ああ、一ヶ月ぶりだね。、
父母　うんうん。
妹　みて、あの、キャベツの山のふもとにあるのは、ぶ、豚肉さんじゃない。
母　そうよ。
妹　こんにちは、豚肉さん。半年ぶりの再会ね。
父母　うんうん。
妹　あれ、これ、これ何。（牛肉のパックを持って）これ何何。

母、妹の手をたたく。おちるパックを父ダイビングキャッチ。

母　気安くさわるなあ。
妹　はい。
母　これは、うしさんです。
妹　うしさん。
母　音読みで、ギュウ
妹　ギュウ。
母　鳴き声はモウ。
妹　モウ！
母　おはつにおめにかかります。
父　ううっ。
妹　お父さん、泣いてる
父　泣いてるよ。
母　お父さんお疲れ様でした。

父　　いやいや。
母　　今日で、このマンションの、ローンがすべて、返済できましたね。
妹　　おめでとーう。（ビールをつぐ）
父　　ありがとう。ありがとう。
母　　はい、お父さん（牛肉をさしだす）
父　　まさか、
母　　お父さんのうしです
父　　うしか。

父、牛を焼き出す。母、なんか取りに台所に行く。

妹　　お父さん
父　　なんだい。
妹　　犬かっていい。
父　　だめだ。
妹　　えええ。もう、ローン返済したなら、いいじゃん。
父　　だめだ。
妹　　なんで。
母　　だめですよ。（台所から戻ってくる）マンションでは動物は飼ってはだめってことになっているんですから。
妹　　えええええ。なんでだめなの。えええええええ。うそつきじゃん。
父　　そんな約束してないだろ。
妹　　じゃあ、ねこ。
母　　ねこもだめ。
妹　　えええええええええ。
母　　もう、う、うしあげません。

いつのまにか、山田がいる。

山田　何たべてんの。
母　　あらおかえりなさい。
妹　　おねえちゃん、肉肉だよ。うしだよ。うし。

バキ！

妹　　も～
父　　おかえり。どうした、そんなところでつったって。
母　　はやく、食べなさい。なくなっちゃうよ。うしようし。
山田　うし。
母　　うしよ。
山田　うし。
全員　うっしっ！
山田　うし。（「うっうっ」といいながら泣き崩れる。）
母　　どうしたの。
父　　泣いてる。
妹　　よろこんでるんだ。

父　　ああもうみんなで笑うしかないね。
全員　あはははははははははは。
山田　人間としておかしい。
三人　えっ。
山田　うしにだって、こころがあるのよ。
父　　どうしたんだ急に。
母　　焼き肉大好きでしょ。
妹　　うしがどうしたのよ。
山田　お父さん。
父　　なんだ。
山田　ちょっと話があるんだけどさあ。
父　　まあいいから食べろよな。今日はさあ、あっ、このうしちょうどいいぞ。
山田　いらないから。
父　　あっそうか。大根おろしがいいかあ。母さん。ローンがね全部返済、
母　　はいはい。
山田　話聞いてよ。
父　　聞いてるよ。
山田　うしかっていい。
父　　うしか。いくらでもあるぞ。なあ。
山田　かっていいかな。
父　　うし買うって。もう８００グラムもかってあるぞ。なあ。
母　　ええ。

　　うしの鳴き声が聞こえる。

全員　・・・・・・・・・・
山田　静かにして。
父　　それなんだ。
山田　かっていい。
母　　ええええええええ。
妹　　わーかわいい。名前は、
山田　もう。
妹　　も～、おっなめるなめる
山田　雄なんだよ。
妹　　かわいいねも～。
山田　だろ
父　　それ学校のうしかあ！
山田　うん。
父　　なんでつれてきたんだ。
山田　この牛さあ雄なんやて、乳牛だからさあ、もうすぐ殺されてまうから、かくまってほしいの。
母　　そんなかってなこととしていいの。
山田　んっ、いいよっていったよ。
母　　うそでしょ。
山田　だって、どうせころされるやつだから、いいぞって。
母　　本当。

山田　本当。
父　うそだ。
母　あっ、火止めてきます。あっちいきなさい。
妹　あい。
父　あのなあ、だめだ。
山田　なんで。
父　そんなんどこにおくんだ。
山田　考えたんだけど、玄関からとにかく、ブルーシート引いてさあ。ベランダ。
父　あほお。
山田　何が。
父　お母さん、先生に電話しなさい。
山田　なにすんの。
父　信じられるかそんな話。
山田　おねがい。こいつさあ、モウっておすなんやて、乳牛ってオスって、乳でんやんね。やでさあ、５０日たったら売られちゃうの。それが明日で。こいつ５０００円でうられちゃうの。たった５０００円で。あたしこいつのおかげでさあ、かわれたの、あたし不真面目やったやんね。でもさあまじめになれたんやんやて、友達ともつきあえるようになったし、だからさあ、こいつ５０００円でかっちゃだめ。こいつうちみたいなんやて。
父　マンションは動物を飼ってはいけないんだよ。
山田　玄関とか庭とか
父　無理だ。
山田　駐車場とか。
父　無理だ。
山田　・・・・・・・
父　先生はこのこと知っているのか。

ピンポン～

母　はい～

川島が入ってくる。

川島　こんばんは。
山田　川島。
父　こんばんは。
川島　帰ろう。山田。モウも
山田　やめてよ。
川島　山田。
山田　なんで、雄ってだけで、淘汰されんの・・・・・・なんで、足不自由ってだけで、値段がかわっちゃうの・・・・・・
川島　・・・・・・わかってるでしょ。
山田　わかってるよ！
川島　山田はさ、このモウが生まれてからさ、がんばってたよ。かわったと思うよ。
山田　うん。
川島　でも・・・・・・なんでも、がんばれば、うまくいくのかな。あたしさあ、あんたが、が

んばる前から、がんばってんだけどさあ、あたしさあ・・・・・・家つげないんだよ。
山田　・・・・・・
川島　お父さん、帰ってこないし。牛の能力あがらないし、借金ふえるし、それでも、母さん一人でがんばってるんだよ。だから、私だって、私だって、がんばってるけど、がんばっても、がんばっても、どうしようもないことだってあるんだよ。
山田　・・・・・・あたしがんばるもん。

モウは、鳴く。そして、自分から出て行く。

山田　モウ。

山田は、モウを追っていく。舞台転換。

桜本　僕が、学校の図書室から勉強用の動物の資料をかかえて、渡り廊下をわたっていた時。モウをつれて、山田さんが校内を歩いていました。あたりは、夕闇が迫っていて、校舎も校庭の木々も牛舎も、すべて紫色でした。そんな、紫色の世界で、山田さん、ひとりで、モウと牛舎に向かって歩いていました。モウは、明日出荷されると聞いています。そんな、モウを連れ出す。山田さんは、マイナス百点です。でも、一人でモウ連れ帰って歩いてる姿を見て、山田えらいなあと思って、だから百点あげます。だから、山田さんプラスマイナス０点です。僕も今０点ですから、山田さんも僕もこれからがんばればいいのだ。山田さんをみていて、僕、そう思いました。

Scence―１３　子守歌

山田、子牛の柵に、モウをつれていく。

山田　モウ、はいって。

子牛は、柵を自分であけてはいっていく。
山田、子牛の世話をする。
子牛に牛乳をあげる。
牛乳バケツを激しくなめる音が、牛舎の中で響く。
飲み終わり、モウは一声鳴く。
山田は、柵をしめる。

山田　モウ、聞いてね。もう、あたしには、あえないからね。もう、あえないけど、明日は、いいこでいるんだよ。ちゃんと、いうことをきいてね。もう、あえないけど。あたしは、モウにあえてよかったて、おもっているからね。モウが、いなくなっても、もう、あたしは、ふまじめなこととかしないし、ちゃんと、牛の面倒も見るし、もう、逃げたりしないからね・・・・・・ごめんね・・・・・・ごめんね。

モウが、山田の手にあまえる。山田、モウの頭をなでる。ここで、はじめての暗転。

Scence―１４　躾

時は夕方。放課後の実習。業者が例によってドナドナを鼻歌しながら入ってくる。

川島が来る。

川島　あっ、こんにちは。
業者　こんにちは。
川島　あっ、先生ですか。
業者　はい、そうです。子牛連れに来ました。
川島　はい。

先生来る。

先生　あ、はい。どうも。どうも。ああ、おい、山田は。
川島　ねえ、山田は。
桜本　山田さんは、今日、こないですよ。
先生　こないって、今日当番だろ。
生徒１　来ないと思います。山田さん
川島　あの、先生、私、今日、ほたると交代しました。
先生　ん。
川島　はい。
先生　ん。ああ、こちらです。

業者、柵の中に入る。そして、モウをつれていく。

業者　この牛、よーなれてますね。
川島　はい。
業者　よう、躾られてますね。担当の生徒さんは。
川島　あっ、いまいません。
業者　そう。
川島　はい。
業者　ふつう、いやがって、たたいても、なにしても、うごかんけどね。よー慣れとるわ。
これ。これ、世話し取った生徒さん、つらいやろうね。
川島　大丈夫ですよ。はい。
業者　あしがこんだけまがっとると、根性曲がってまうけどね。素直な子や。

先生、ロープ持ってくる。

業者　あっどうも、先生。お手伝い要りませんから。いらないと思います。
先生　はい。おねがいします。
生徒１　おねがいします。
桜本　おねがいします。

モウ、業者の手をなめる。

業者　おお、おっさんの手もなめるか。おお。

生徒達も、モウの名を呼びかけながら、頭をなでる。
そこには全員の悲しいんだけど、不思議な笑顔がある。

それを、大人達は見ている。

業者　では、いきます。

業者つれていく。

先生　今日は、歌わないですね。
業者　ええ。

業者は袖に停めてある車に、モウを車にのせ。エンジンをかけて出発する。

Scence―１５　応援歌

エンジンの音が通り過ぎていく。
山田は、畜舎のブリッジで、業者の車が通りすぎていくのを見ている。
山田の心の中で、トラックの音が、徐々に高鳴る。耳をつんざくほどのエンジン音となり、それはしかし、静かに通り過ぎていく。
山田はブリッジを降り消える。
チャイム。管理当番のアナウンス「ただいまより、本館ならびに、図書情報棟を施錠します。定期考査がちかいです。用のないと生徒は、直ちに、帰りなさい。」
放課後の実習が終わる。あいさつをして解散する生徒達と先生。
川島の就職がきまったことが、先生の口から言われる。
みんな拍手。
桜本のセンター試験が迫っていることが先生の口から言われる。
みんな応援。
馬渕と長野が、なんかしゃべりながらブリッジをあがっていく。
モウの柵を掃除をしている山田に気づく。
二人は、山田に声をかける。

長野　そこにまします。山田ほたるにものもーす。
馬渕　ものもーす。
長野　伊吹の山際より、かけおりたる。伊吹のおろし、鋼の風をうけて、君は育ち。
馬渕　金華の山を抱き、黄金の野の中に降り立ちたる、赤き闘神の化身として、君は育ち。
長野　ろうろうたる。
馬渕　けんらんたる。
長野　命の泉、今も絶えず、流れ。
二人　この長良の川に磨かれた君。
長野　金華の風、山田の上に吹きすさぶ。
馬渕　負けるな負けるなと吹きすさぶ。
長野　負けるな負けるなと吹きすさぶ。
二人　百花繚乱！猛牛乱舞！山田ほたるに応援歌。我ら牛団。
二人　赤き牛の唄！

ここで、一呼吸する。馬渕と長野、山田の様子を見る。そして。
２人の声を聞き、桜本と川島がそこにいる。

二人　せえの……も――――――――――――――。

間

山田は泣いている。長野と馬渕はあわててブリッジから駆け下りようとする。
桜本の声が上がる

桜本　も――――――――――――――

長野と馬渕が驚く、つづけて川島も参加する

二人　も――――――――――――――

山田の声が上がる。

山田　も――――――――――――――。

間

長野馬渕　　も――――――――――――――

そして、全員の息が合う。

全員　も――――――――――――――。

なにもないところから風が吹いてきて、ファンが回る。
山田はもう泣いていない。
誰かが「帰ろう」と言う。
畜舎を後にしようとする生徒達の中、世界は紫色に染まっていく。

幕